



平成18年新春を迎えて

長崎県技術士会会長 犬東洋志

会員の皆さん新年明けましておめでとうございます。
APREN と名を変えて初めての機関紙です。

技術者にとっては言いようのない年末でした。まだ引きずるのでしょうか日本人の美德とする思いやりの心はどうなってしまったのでしょうか。各人は研鑽に励み自らの力で希望が持てる一年にしなくてはなりません。

COMPUTER がすべてと誤った考えが横行してはいないでしょうか。扱っているのは人間なのです。そのことが忘れられています。改革とか経費節減とか OUTSOUTHING とかでチェック機能がまったく無くなり何処に責任があるのかわからないのかお詫び会見ばかりが目立ちますが、頭を下げる前に為すことがある筈です。

苦しくとも一度立ち止まって現状と将来を考えると時です。明日のメシが無いのにそんなことをしてはいられないと言う意見を良く耳にしますが、将来を見通す判断ができずにどうして生き残れる道を企画できるのか疑問です。

昨年度には委員会を構成して仕事を分担して頂いています。今回の紙面にも各委員会の報告がなされているようにその効果が出てきております。会員の皆さんもどこかに属して意見交換をなさって下さい

最近集まることなく Mail 会議で進めることが多くなりましたが、半面意見が希釈されたりカットされたりすることは理解しなくてはなりません。

さて、APREN も長く活動をして来ましたが Memorial になるものはありません。新年度には HP が開設されます。

NERC ((財) 長崎県建設技術研究センター) の力をお借りしての他力本願ですが画期的なことです。

何か新しい企画を考えてみたいと思います。新年度に検討会を企画しますから名乗りを上げてください。

しかし何をすることも資金です。この議論から始めなくてはなりません。一番大切で最も難しい Thema です。チェを絞ることも技術です。

今年一年さすがと言われる APREN 活動をして何かを残したいと思います。ご協力をお願いいたしましてご挨拶いたします。

総務・広報委員会

委員長 大橋 義美

本委員会は、会員名簿の作成、県技術士会年会費の徴収、会の会計、支部等からの連絡事項の処理、総会の準備・開催、機関誌の発行が主たる業務です。

メンバーは、平原宏志、大橋義美でスタートしました。今後メンバーを募り活動を活発化して行きたいと考えていますので参加をお願いいたします。

総務・広報関係の、現状の課題と今後の取り組み等についてご報告いたします。

① 会員名簿の作成

名簿については、現状会員の氏名・所属・住所などの一覧表を、機関誌に添付しますので訂正事項等がありましたらご連絡をお願いいたします。

特に、メールアドレスについてはチェックを宜しくお願いします。メールで連絡できる会員へはメールでの連絡を行いたいと考えています。

本年度(2006年7月頃発行)も例年のとおり「長崎県年鑑」(有中央人事通信社総局発行)には肖像入りで掲載いたします。訂正事項や写真の変更がありましたらご連絡下さい。

② 会員の状況

現在の会員数は、98名です。

③ 会費の徴収

本年度より会費を変更しましたが、現在で会員100名の内69名の入金があつています。納入が未済みの方は、納入方宜しくお願い申し上げます。

特に、2年以上の未納の場合は会員資格を無くすこととなりますので宜しくお願い申し上げます。

④ 機関誌の発行

本号で12号となります。機関誌の発行などは継続が重要と考えています。今後は、より充実した機関誌に思っていますので、会員皆様の多くの投稿をお願いします。

機関誌の執筆者については、今後、皆様へ幅広くお願いしたいと考えています。このため、直接お願いのメール等を送信させていただきたいとも考えていますので、依頼がありましたらお忙しいとは思いますがご協力頂きますよう宜しくお願いいたします。

機関誌の表題は、APREN-Nagasaki に変更したいと考えていますが、今回は修正が不可能なため現状の表紙としています。

⑤ 長崎県技術士会等への入会お誘い

現在登録されている技術士や修習技術者(技術士補)で県の技術士会へ入会されていない方が、未だ多いのではと思っています。今後は、これらの方々への入会のお誘いが必要と考えます。長崎県技術士会を発展させるためには、多くの会員で地域に開かれた貢献する技術士会として活動が必要と考えています。

⑥ 会長の新年の挨拶にもありますように、本年は皆様各委員会に登録して活動をして頂きたいと思ひます。技術士会としての活動は、技術に対する情報交換、自己啓発等に重要な役割を果たすものと考えますので、積極的な参加をお願いいたします。

本年が、長崎県技術士会会員にとって佳い年になることを祈念いたします。

IT委員会

委員長 西村 博崇

「18年4月のホームページ開設に向けて」

昨年の11月にIT委員会のメンバーが決まり、活動を開始することになりました。

メンバーは、岩永徹、若杉泰昭、川村昭宣、犬束洋志、西村博崇の5名です。ITに関しては素人集団ですが、当面は18年4月に長崎県技術士会のHPを開設すべく活動してまいりますのでよろしくお願いいたします。

HPの開設により、会員への情報提供や会員間の意見の交換等が簡略かつ正確に行われ、会の活動の活性化に役立つものと期待しています。現在、委員会でHPに関する意見を出し合い集約をしているところです。今後のスケジュールは次のように考えています。

- ①IT委員会の基本案をもとにHP原案を作成する
- ②役員会に説明する
- ③機関誌を通して会員の皆様に開示し意見を求める
- ④修正作業を行う
- ⑤総会に諮り平成18年度のスタートを目指す

HPを開設するまでには、まだまだ議論や検討が必要で、「地域に開かれた貢献する技術士会」として継続した活動をするためにHPが少しでも役立てればと考えています。

また、HPの開設以上にその運用が重要なポイントです。会員の皆様の積極的な参画をお待ちしています

会員の皆様のご協力とご意見、ご要望等をよろしくお願いいたします。

災害・技術支援委員会

委員長 松永 光司

災害は、時代の流れの中でその様相が変化しており、特に都市の災害では、その対応を一元化できない複雑なものとなってきています。そのため、行政・専門家・住民のネットワーク化が求められています。

私は、災害対応に必要な科学技術分野の専門集団である技術士会がそのコーディネートの役割を果たすべきであると考えています。これからは、自主防災組織との係わりやNPOとの協働化などが重要な課題となります。

委員長として微力ではありますが、多くの会員の方の参加を頂き、協力して防災研究、防災地域交流、防災情報活動等を進めていきたいと考えていますので宜しくお願いいたします。

九州支部の災害・技術支援委員会の最近の活動状況について報告します。

平成17年11月15日に、第2回九州支部の災害・技術支援委員会幹事会が開催されました。これまでの支部委員会では、地震発生に対する危機感はまったくなく、台風・梅雨前線豪雨による被害を想定し災害発生直後の市町村からの要請に基づく復旧支援を目的にしていました。しかし、現在まで市町村からの要請は全くなく、実際の活動は皆無といった状況であること、又、福岡県西部沖地震発生を契機として、災害発生以前に減災対策を研究する方向での委員会活動が必要であるとの意見が委員内部から提出された

ことから、委員会として新たな対応が必要であるとの認識が幹事会で確認されました。

さらに、委員会活動現況、福岡県西部沖地震への反省、他支部の実状を踏まえ、九州支部災害・技術支援委員会を今後どのような方向に改革すべきかが議論されました。その結果、ゼロからのスタートであること、関係者へのアンケートが必要であることが確認され、関係者（長崎県は県の委員長及び地区代表幹事）のアンケートが実施されました。実施された内容の集計結果については発表があり次第ご報告いたします

尚、日本技術士会の災害・技術支援委員としての登録は日本技術士会のホームページにより出来ますので、日本技術士会員の方には登録をお願いいたします。

CPD委員会

委員長 小松 和彦

「耐震偽装事件について」

現在、最も社会で関心を集めているのは、「耐震偽装事件」であります。某1級建築士が建築の構造計算を偽装したものであります。

新聞には、ある1級建築士の「自らの存在意義を放棄した行為だ」という談話が掲載されていました。翻って、わが技術士においても、技術士法の中に技術士等の義務として、信用失墜行為の禁止、公益確保の義務等が規定されています。されに「技術士倫理要綱」には「技術士は技術的良心に基づいて行動する」とあります。

今回の事件を他山の石としなければならないと思います。また、技術士法には資質向上の責務が謳われており、これにより技術士CPD制度があります。「技術士CPDガイドブック」には、技術士CPDの修得課題として「倫理」が記載されています。

今回の「耐震偽装事件」をケーススタディとして注視することは、まさに技術士CPDであると考えます。

CPD委員会として、研修会の開催に努力して行きますので会員皆様のご協力をお願いいたします。

各種研修会には、多くの会員皆様が参加され技術士としての資質の向上に努められるようお願いいたします。

修習技術者支援委員会

委員長 山口 和登

第二次試験を受験する資格のある技術者を修習技術者と称していますが、今後、技術士を受験する修習技術者は増加するものと考えられ、このため、技術士として受験指導に当たることも多くなるのではないかと思います。我々技術士も指導に当たることで技術者としての能力もより磨かれるのではないかと思います。

現在、支援委員会としての具体的な活動には至っていませんが、今後、どのような活動が必要か検討して行きたいと考えています。本稿では、技術士育成に取り組みされた藤村幹治技術士にお願いし長崎県庁での育成の事例をご紹介します。修習技術者の支援・指導の参考

「後に続く技術士育成のために」

藤村幹治（総合技術監理部門・農業部門）

我々技術士にとって、自己研鑽とともに後に続く技術士の育成も使命の一つであろう。技術士育成は、①第一次試験受験啓発、②第一次試験受験学習支援、③修習技術者育成支援、④第二次試験受験啓発、⑤第二次試験受験学習支援の5ステップの活動支援がある。

現在県技術士会では、毎年第一次試験と第二次試験の受験申込書配布説明会を開催しているが、これらは上記の①及び④の啓発活動に当たる。今後は、第一次試験に合格した修習技術者の増加に伴い③の指導技術士の紹介斡旋が必要になると思われるが、②と⑤については、専門部門ごとに指導内容が異なり、県技術士会として取り組むことは困難であろうと思う。それを補完する形で、②と⑤について、独自の取り組みでめざましい成果をあげている事例があるので紹介してみたい。

それは、県庁に勤務する農業土木技術者の有志が、月1回土曜日の午後半日一堂に集い、第一次試験に向けた勉強会を実践している事例である。スタートは技術士側から提案し、集まった受講者への勉強指導を担い軌道に乗せたが、本年度からその合格者にバトンタッチした。特徴は専任講師による講義形式ではなく、試験範囲を受講者で分担し自分たちで教え合い学び合う手法を考案したことで、ジョイント・リサーチ・セミナーと名付けた。

これまでの合格率は1年目が88%（15/17）、2年目は96%（26/27）と驚異的に高かった。3年目の本年度は、これまでのような高率は望めなかったものの55%（12/22）が合格し、3年間通算の合格率は80%、合格者数は53名で県の農業土木技術職員（約160名）の1/3に達し、今やこの試験は県農業土木技術職員として当然の資格になりつつある。二次試験の論文添削も、現役とOBの技術士（農業土木）が分担してあたり、本年度は12名受験し7名が筆記試験に合格した。この部門の九州での合格者が20名であり、その1/3を占めたことは画期的なことである。

これら②と⑤のステップについて、県技術士会として各分野に公平に取り組むことは難しく、それぞれの部門にいる技術士への期待は大きい。

尚、本年も第1次及び第2次試験の受験申し込み説明会を開催（開催日時及び場所は未定）する予定です。

本田圭助技術士（機械部門）が「平成17年度長崎新聞文化賞」を受賞される

本田技術士は、三菱重工業（株）長崎造船所で長年発電ボイラーの設計に従事され、同所が世界トップレベルのボイラーメーカーに発展する礎を築かれた。特に新技術開発に貢献し登録された特許は56件にのぼり、その多くは火力発電所プラントの効率化、環境対策に活用されています。

現在、NPO法人環境カウンセリング協会長崎の設立、学童の環境学習の指導、市民への地球温暖化防止の普及・啓発活動などに尽力され、一貫して長崎を舞台とし環境と

にして頂ければと考えます。

エネルギー開発の解決に貢献し続けられています。

この様な実績により、「平成17年度長崎新聞文化賞・産業・科学部門」を受賞されました。これは長崎県の産業・科学などの発展と向上に貢献した方々の業績を顕彰する目的で1955年に制定され、今年で50年を迎えています。

この受賞は、長崎県技術士会としての誇りでもありません。新年研修会において、この受賞に関する業績の想いで等の講演をお願いしています。多くの会員各位のご出席をお願いいたします。

事務局たより

1：月日の経つのは早いもので、本機関誌も発行後3回目の新春を迎えることが出来ました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

今回の機関誌は、新年号として会長と各委員会よりの連絡事項などについての執筆をお願いいたしました。

2：昨年は技術士会にとっては、6月に佐賀市での「第11回西日本技術士業績・研究発表会」、10月に福岡市で「第32回技術士全国大会」等が開催され重要な1年となりました。

長崎県からも多くの会員皆様の参加を得て無事終了することが出来、長崎県技術士会としても役目を果たすことが出来ました。発表会や各種の研修会でご講演頂きました会員の方、又、参加頂きました会員各位に感謝いたします。

3：機関誌や連絡事項等は極力メールで日常の連絡が可能になることを願っています。つきましては、現在郵送で連絡している会員でメールで可能な方はご連絡をお願いいたします。

尚、メール送信で届かずご迷惑をお掛けしている会員の方もいるかと思えます。お詫びを申し上げます。

同封しています会員名簿のメール等が違っていましたらご連絡頂きますようお願い申し上げます。

4：職場変更等のご連絡のお願い

人事異動などで職場が変更となられた場合や、市町村合併で住所が変更となった会員はご連絡をお願いいたします。

5：その他

会の活動等に関する提案や自由なご意見等、本機関紙への投稿をお待ちしております。会員皆様の要望、意見、各種情報等も下記までお寄せください。

長崎県技術士会に関する連絡は、下記へお願いいたします。

西日本菱重興産株式会社土木部 大橋 義美

〒852-8136

長崎市神の島町3丁目9番9号

TEL 095-865-520

FAX 095-865-5880

E-mail: yoshimi.oohashi@west-ryoko.co.jp